

## 東北 太平山 大旭又沢

【日時】 2010年10月9(土)-10月11日(月)

【メンバー】L田村、SL浅井、煤孫、金沢

太平山の沢は前から行きたいと思っていた。特に秋田市から見て裏側にあたる北～北東部に広がる自然の森。マタギが暮らすこの森を、私も彷徨ってみたかった。ただ東京からの2泊3日は余りに短く、今回は北部だけに絞って計画した。(田村)

10月9日(土) 金沢記

8日(金)22時10分発の夜行バスに乗車する。普段の車とは違い、遠足に出発するようなワクワク感があるのは僕だけだろうか?加えてザックの中には2泊3日に耐えうる「酒」、東北の「温泉」、紅葉豊かな「沢」。考えてしまうと仕事に手がつかなかった。決して座り心地は良くないが揺れに揺られながら熟睡し目が覚めたら6時秋田駅着。予約していたレンタカーを借りて登山口まで急ぐ。9時15分頃萩形平付近に車を止めて9:45出発。天気は曇りで小雨が降ったり止んだりの天気。爽快な歩きとは言えないが少し紅葉がかった東北の沢を満喫しながら平坦な沢を淡々と歩く。

10:50傘沢付近を通過。12:00大旭又沢と小旭又沢の分岐を通過。ここまでの行程は大きな滝や高巻きも無く、癒しの沢だ。新人の私はきのこがまったくわからず、先輩のレクチャーを受けながらブナハリ、ナラタケなどを採って行く。きのこの勉強にはうってつけの沢だ。過去の記録にある「のどちんこ」を少し過ぎたあたりにテン場を見つけ16:30着。テン場は少し高い所にあるが平坦で寝ごごちが良い。夕食は道中に採ったブナハリの味噌汁など収穫したきのこを堪能しながら就寝。寝るころには大粒の雨が降っていた。明日の増水が心配だ。

★いいもの見つけた!



10月10日(日) 煤孫記

前夜降り続いていた雨が朝には小降りになっていた。低気圧の通過にともなう降水量がどのくらいになるかを心配していたが、それほどでもなかったようだ。沢が増水していなかったので、計画通りに大旭又沢をつめることを確認して出発した。

右から入る支沢を1本、2本確認して、9:00に岩魚沢出合に着いた。ここで休憩。その後もしばらくなだらかな溪相が続くが、だんだん傾斜が出てきた。ナメ滝が続けて現れた。5mのナメ滝はフリクションで登るにはちょっと傾斜があったように見えたが、左から簡単に登れた。

沢が狭くなってきてゴルジュが出てきた。腰まで浸かりながら通過する。

しばらくして深いゴルジュがあった。小さくまきたかったが草付で悪い。浅井さんが偵察に行って、空身なら行けそうだとのことだったが、大きくまくことにした。約1時間の大高まきになった。その上にもゴルジュが続いた。腰や、胸まで浸かりながら通過する。この季節に胸まで浸かるのは寒い！今夜は盛大に焚火しようね。

その後しばらくなだらかになり、右から入る支沢の大きな滝が見えた。ここを左に曲がったところに大滝が現れた。水量が多く、なかなか見事な滝だ。滝は登れないので右の草付を登ることにした。傾斜が緩いのでザイルなしで行けるかと思ったが、結局ザイルを出して浅井さんがリードした。途中にあった岩の割れ目を見つけてハーケンを打った。木のある所まで登ってからトラバースして、最後は懸垂で沢床に降りた。

しばらくして泳がないと突破できないゴルジュが出てきた。まくのも悪そうなので観念して泳ぐことにする。田村Lが元水泳部の金沢君をリードに指名した。金沢君はザイルを引いて空身で泳ぎ、出口のところは左右に突っ張って難なく登った。2番手以降はザイルで引いてもらうのでラクに泳げた。金沢君にリードさせたのは、田村Lのナイス判断だったと思う。来年は金沢君と泳ぎの沢に行こうか。

右に左に支沢を分けて、だんだん水量が少なくなってきた。沢が西へ方向を変えた。670m付近の二俣を幕場にしようと考えていた。2:50に二俣に到着。左俣は南西から入っていて、これが明日入る沢だ。ここで平坦な場所を見つけて幕場とした。



左：大旭又沢大滝、右：ゴルジュを泳いでリードする金沢君



10月11日(月) 浅井記

昨夜から断続的に降っていた雨は朝まで少し残っていたが、出発する頃にはなんとか止んだので、予定通りこのまま本流をつめることにする。天気予報では今日は天気は回復し、お昼頃から晴れてくるらしいので、それに期待をつなぎながら、6:10、出発。すぐゴルジュとなり2段10mの滝がかかるが、左から楽に越えられた。小滝がいくつか続くと、一旦傾斜が緩んだ。その後は2段5mの滝を越えるとやがて8m3条の美しい滝に出会う。ここは左の水流沿いを楽に登れた。次の6m滝はホールドが細かいので、私が水流の左を空身で登って後続をフォローした。

小滝を越えると、7:20、前方に大きな滝が見えてきた。ここは左からも滝になって沢が出合い、ちょうど両門の滝のような眺めになっており圧巻。ここは地形図では860mのあたりと思われる。本流の滝は2段10m程だが、水量が多く立派な滝だ。ここは水流の右の凹角に登れそうなので、私が空身でリードした。出だしはぬめっていたが、傾斜がゆるく楽に登れた。その上にはつるつるの4m滝があり、これは登れないので、左の枝沢の小滝を登って小さく巻いた。この枝沢の小滝が意外といやらしかったが、煤孫さんが見事にリードしてくれた。

さらに進むと10m程の直瀑が現れた。これは登れないので、比較的傾斜のゆるい右岸から高巻くことにした。このあたりは地形図では950m付近と思われるが、等高線がつまっており、両岸が切り立った険しい地形となっている。少し戻った登りやすい所から高巻いたが、険しい溪相のため、大高巻きを強いられた。高巻き途中から見ると、10m滝の上にはさらに大きな15m程の直瀑が連なっていたので、この滝も一緒に巻くことにした。最後は懸垂10mで沢床に下りたが、思いがけない滝の連続に驚かされた。昨日の見事なゴルジュといい、1000m程度の低山とは思えない変化に富んだすばらしい沢だ。

この後は、2段8mをはじめいくつかの滝があったが、問題なく越えていく。やがて小さなナメが出てくるともう沢は源頭の様相。沢型は稜線直下まで続き、たいしたヤブ漕ぎもなしで、10:20、登山道に出た。ここは太平山の南側の山頂直下である。少し登って10:30、1170mの山頂に到着。山頂には立派な鳥居が立っており、地元のハイカーで賑わっていた。天気も予報どおり回復して、ますますの眺めだ。初めての山なので、展望を楽しみながらゆっくりしたいところだが、下山が長いので、10:50、早々に下山開始。

紅葉に色づいた稜線をハイカー気分でも歩する。11:50、笹森に着く。途中手嶋さんの知り合いの方に偶然お会いし、挨拶を交わした。ここからは車を置いた萩形沢のコースに入る。これは長いコースなので、ほとんど人が入らない静かな道だ。途中のブナ森の眺めがすばらしかった。途中から地形図にはない尾根コースに入り、14:30、萩形沢の林道に下りた。ここは天上沢の出合から30分程手前の所である。後は林道をひたすら歩き、15:50、車に戻った。

時間が押しているので、急いで帰り支度をし、秋田駅に向かう。風呂に入れなかった



のは残念だが、駅前でレンタカーを返却し、なんとか最終の秋田新幹線で帰ることができた。

大旭又沢は予想以上にすばらしい沢だった。天気があまり思わしくない中、予定通り完遂できたのは、終始皆のやる気がみなぎっていたからだと思う。企画してくれた田村さんはじめ皆さんどうもありがとうございました。



最後に・・・田村

太平山は期待を裏切らない、素晴らしい山であった。たかだか1,000mくらいなのに、奥深い自然の森が続いている。その点は下田川内と似ているが、極端な難しさはなく、いつでも我々遡行者を穏やかに迎えてくれるような雰囲気がつとてもうれしい。これから先、何度も通ってみたい。

【グレード】大旭又沢 3級

【行程】

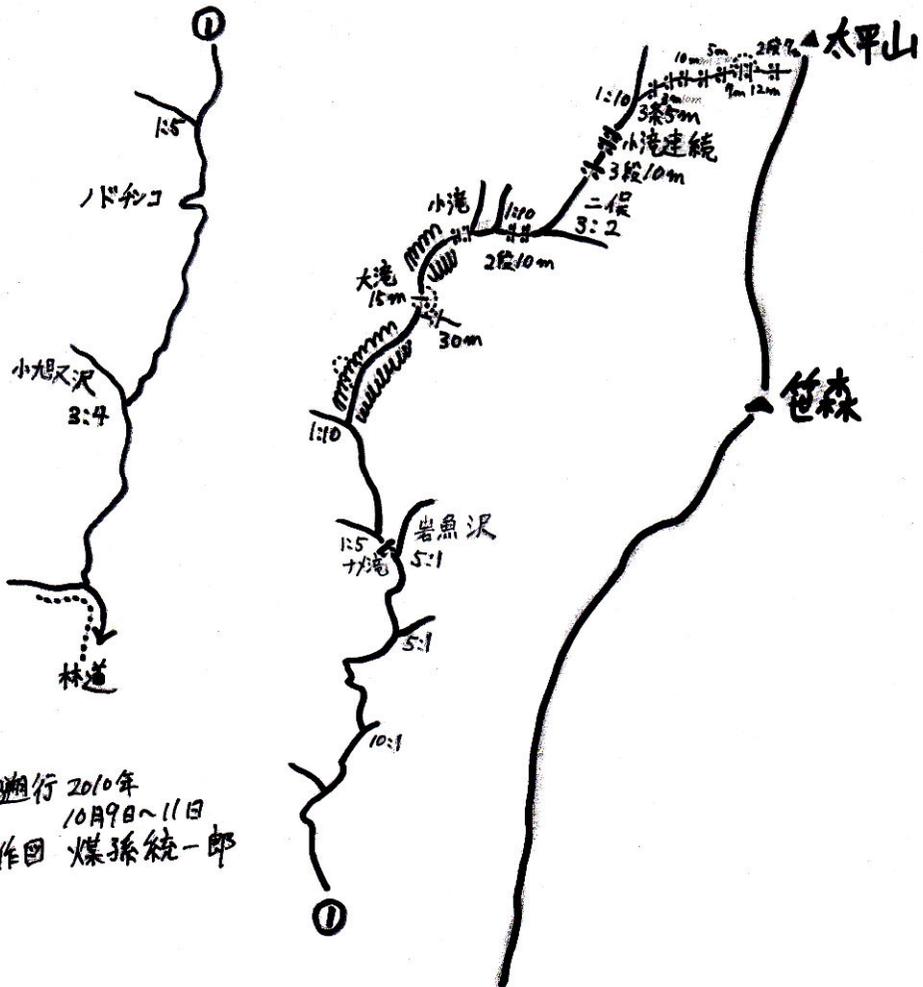
10/9(土) 駐車場(9:40)～傘沢出合(10:50)～樽沢出合(11:00)～大旭又沢出合(12:00)～幕場(16:30)

10/10(日) 幕場(7:45)～岩魚沢出合(9:00-15)～大滝の上(13:15)～二俣(幕場)(14:50)

10/11(月) 幕場(6:10)～登山道(10:25)～太平山(10:35-55)～笹森(11:50)～萩形沢林道(14:30)～駐車場(15:50)

【地図】太平山、天上倉山

# 太平山. 大旭又沢



溯行 2010年  
10月9日~11日  
作回 煤孫統一郎